

水害時の衛生対策と消毒について

集中豪雨などで家屋等が浸水した場合は、細菌が繁殖し感染症や食中毒が起りやすくなります。安心して生活できるように、また健康被害を予防するためきちんと消毒を行いましょう。

<日本環境感染学会による>

1. 浸水後、自宅に戻った時に注意すること

- ① ガス漏れが無いことを確認した後、戻ります。
- ② 電気系統が水に浸かった場合は、安全が確認できるまでブレーカーを切っておきます。
- ③ プロパンガスボンベ、車のバッテリーなどの危険物を見つけたら、近づかず、消防署等に相談します。
- ④ 洪水後、数日して自宅に戻るときは、屋内にカビが発生している可能性があります。素早くドアと窓を開放し、30分以上換気した後、改めて家の中に入ります。
- ⑤ 清掃が完了するまで、子どもやペットが室内に入らないようにします。

2. 清掃時に注意すること

- ① 室内を乾燥させるため、できる限り、ドアと窓を開放します。
- ② けがを防ぐために厚手のゴム手袋、ゴム長靴(あればゴーグルをつけて眼も保護します)、ほこりを吸い込まないためにマスクをつけて清掃にあたります。
- ③ (堅い)床、壁、金属部分、調理台、シンクなどは水と石けん(洗濯用石けんや食器用洗剤)で洗い流し、泥や破片を取り除きます。
- ④ 高圧洗浄機を用いると効果的に洗浄できますが、その際はマスクを着用し、換気に気をつけます。
- ⑤ 浸水して洗うことのできない家具(カーペット、布製ソファなど)は撤去します。
- ⑥ 消毒は必ず泥や汚れを取り除いた後で行いますので、清掃が不十分ですと効果を発揮できません。
- ⑦ 可能なら、扇風機を使い、乾燥を促します。
- ⑧ 浸水した衣類、布類は熱水洗濯、あるいは80度の熱水に10分以上漬けた後洗濯し、乾燥させます。
- ⑨ 終了後は、しっかり手を洗い、シャワーを浴びます。
- ⑩ 清掃時に着ていた服は、汚れていない服と区別して洗濯します。

3. 具体的な衛生対策

<床上浸水の場合>

室内は、食事や睡眠など生活を行う場所のため、泥や汚れを十分に取り除いた後、消毒を行いましょう。

- ① 水が引いた後、濡れた畳や家の中の不要な物を片付けます。
- ② 汚れた家具や床・壁などは、水で洗い流すか、雑巾で水拭きするなどします。
- ③ 食器類や調理器具などは、水洗いして汚れをきれいに洗い流します。
- ④ 食器棚や冷蔵庫などは、汚れをきれいに拭き取ります。

<家の周囲や床下浸水の場合>

家の周囲や床下浸水の場合、土砂等を取り除いた後水道水で洗い流し、しっかり乾かすことが重要です。

床下に流れ込んだ土砂や水分が残っている場合、その湿気により家の基礎や土台（床組）などに影響が出る場合があります。

- ① 汚泥や不要なものなどを片付けます。
- ② 庭木や外壁についた泥は、水で十分に洗い流します。
- ③ 床下喚起口のゴミを取り除き、床下の風通しを良くします。
必要に応じて畳・床板等をはがして乾かします。
- ④ 床下はスコップや流水を用いて汚泥を取り除いた後、雑巾などで水気を無くし、扇風機などにより強制的に換気し乾燥させます。

<食中毒、感染症の予防のために>

- ① 受水槽は、安全と衛生を点検・確認してから使用します。
- ② 水に浸かった食品や、停電により保存温度が保てなかった要冷蔵・冷凍食品は廃棄します。
- ③ 自家栽培した野菜の生食は避けましょう。
- ④ からだに異常を感じたら、早めに医療機関で受診します。
- ⑤ 食事の前や用便、清掃の後などは、石けんと流水でしっかりと手を洗います。
- ⑥ 井戸水は、水質検査で安全を確認後、使用します。
- ⑦ 破傷風ワクチンの接種歴を確認します。10年以内に接種歴がない場合は、医療機関に相談します。

清掃の時の注意事項

- ◆◆ ドアと窓を開けて、しっかり喚起
- ◆◆ 汚泥は取り除き、しっかり乾燥
ー消毒薬は汚れを取り除いた上で使用しましょうー
- ◆◆ 清掃中のケガ予防に手袋を着用
- ◆◆ ほこりを吸わないようにマスクを着用
- ◆◆ 清掃が終わったら、しっかり手洗い

主な消毒方法について

薬液の濃度や用法など消毒液は、薄めて（希釈して）使用するものがあります。使用上の注意事項を確認してから使用しましょう。

- 汚染の程度がひどい場合、長時間浸水していた場合は、できるだけ次亜塩素酸ナトリウムを使用する。
- 対象物が、色あせ、腐食などにより次亜塩素酸ナトリウムが使用できない場合、アルコール、塩化ベンザルコニウムを使用する。

消毒薬	対象と使い方	
	食器類・流し台・浴槽	家具類・床
次亜塩素酸ナトリウム (家庭用塩素系漂白剤 ハイター又はブリーチ等)	<p style="text-align: center;">0.02%に希釈する</p> <p>①食器用洗剤と水で洗う。 ②希釈した消毒液に5分間漬けるか、消毒薬を含ませた布で拭き、その後、水洗い・水拭きする。 ③よく乾燥させる。</p>	<p style="text-align: center;">0.1%に希釈する</p> <p>①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。 ③金属面や木面など色あせが気になる場所は、水で2度拭きする。</p>
消毒用アルコール	<p style="text-align: center;">希釈せず、原液のまま使用する</p> <p>① 洗剤と水で洗う。 ② アルコールを含ませた布で拭く。</p> <p>*70%以上のアルコール濃度のものを使用すること *火気のあるところでは使用しない</p>	<p style="text-align: center;">希釈せず、原液のまま使用する</p> <p>①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ② アルコールを含ませた布で拭く。</p> <p>*70%以上のアルコール濃度のものを使用すること *火気のあるところでは使用しない</p>
10%塩化ベンザルコニウム (逆性石けん)	<p style="text-align: center;">0.1%に希釈する</p> <p>①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。</p>	<p style="text-align: center;">0.1%に希釈する</p> <p>①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ③ 調整した液を浸した布などでよく拭く。</p>

参考：日本環境感染学会 一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法

希釈の参考	10%消毒液の場合		5%消毒液の場合	
	0.1%希釈	0.02%希釈	0.1%希釈	0.02%希釈
バケツ (10ℓ) を使用する場合	消毒液 100 cc 水 10ℓ	消毒液 20 cc 水 10ℓ	消毒液 200 cc 水 10ℓ	消毒液 40 cc 水 10ℓ
ペットボトル (1ℓ) を使用する場合	消毒液 10 cc 水 1ℓ	消毒液 2 cc 水 1ℓ	消毒液 20 cc 水 1ℓ	消毒液 4 cc 水 1ℓ

感染症予防のためには
清掃と**乾燥**が最も重要です

屋外（特に床下や庭）では消毒は原則不要です

消石灰の取扱いに注意

**肌や目を痛める恐れがあるため、
消毒目的での使用は推奨しません。
使用する場合は十分な注意が必要です。**

消石灰は、アルカリ性であり、肌や目に触れると炎症を起こします。
特に、撒いた消石灰が飛散して目に入ると、大変危険です。
目に入った場合、失明する恐れがあるため、すぐに大量の水で洗い流し、
医療機関を受診しましょう。

感染症予防対策として消毒の作業についてのご質問は、
下記までご連絡ください。

お問合せ先
東御市役所 健康福祉部健康推進課 電話 0268-64-8882